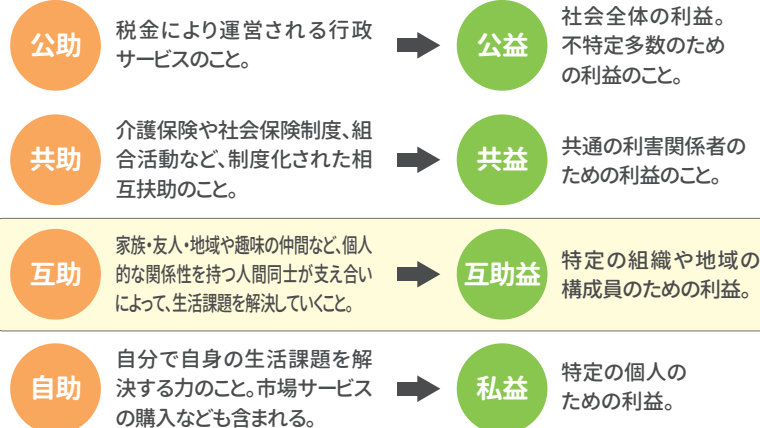


市民活動や地域活動の取り組みが広がるにつれて、活動の「目指すべき地域の姿」や「理想の活動成果」のハードルを高くしすぎていませんか？ ほとんどボランティアで成り立っている市民活動は、理想や活動領域を大きく考えすぎると、持続可能なものではなくなくなってしまいます。市民活動が担うべき活動領域を考える際には、福祉の分野の「地域包括ケアシステム」で言われる「自助・互助・共助・公助」の考え方が参考になります。

地域包括ケアシステム
「自助・互助・共助・公助」の考え方



本来、市民活動が担うべき領域は
“互助・互助益”です。

現代社会の問題点のひとつは、共同体の空洞化により、多くの人々が自助＝市場と、公助＝行政サービスだけを頼りに生活している点にあると言われています。その中で、改めて互助的な関係性を取り戻し、多様なコミュニティに囲まれて生活できる社会をつくらうという動きが市民活動です。もちろん行政の補助金を活用する際には「公益」に配慮する必要がありますが、市民活動はあくまでも社会の中の互助的な関係性を豊かにするための活動。「できることを・できる範囲で」が市民活動の基本です。公益に偏りすぎることなく、活動が自分たちの実生活にプラスになっているという実感や、無理なく続けられる活動量を大切に、自分たちが持続可能な活動領域を考えていきましょう。

この団体ができること

私たち、「優香の会」は
香道やお香の体験会をすることができます！

様々な世代に香道や与板の魅力を発信するため、香道の魅力を初歩から丁寧に指導する「与板 de 香道」という体験会を実施しています。伝統的な「お香」の体験を通して、癒しの時間を一緒に過ごしませんか？

活用しよう！ 協働マッチングリスト

市民活動団体の「協力できること」「協力してほしいこと」をまとめたリストです。リストを開けば、助けになる団体、または力になれる団体がきっと見つかります！



センターからのお知らせ

オンラインで盛り上がり！
市民活動フェスタ2020



毎年アオーレ長岡で実施し、来場者数5,000人を超えるまちの文化祭「市民活動フェスタ」。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、従来規模での実施を断念しましたが、参加団体の皆さんの活動をPRするべく、活動紹介動画を制作中です！随時アップしていくので、下記よりぜひご覧ください。

最新情報・詳細はこちら

動画をご覧いただける場所
ながおか市民活動フェスタのYoutubeチャンネル



協働センター Q&A

よく寄せられるご相談

Q. 補助金の募集要項などでよく見る「公益事業」や「公益性」とはなんですか？

A. 公益は公共の利益のこと。その事業で利益を得る人が社会全体、不特定多数に開かれているかどうかポイントです。逆に、受益者が特定の個人や団体、対象に限られている事業は、公益性が低いとみなされる場合があります。

Q. 補助金が打ち切られると、活動ができなくなってしまうのですが……。

A. 本来、市民活動はメンバーが自分たちができる範囲でできることを行う「互助」的な活動です。そのため資金も自分たちが用意できる範囲で活動することが望ましいと言えます。まずは自己資金でまかなえる活動の最小単位は何か？を基準に、活動内容を見直してみてください。



Racotte vol.93
発行 ながおか市民協働センター

2020
9
FREE

今月のインタビュー

川口に惚れて根を張る移住者
砂川祐次郎さん

活動地域 川口



活動分野 | 地域づくり
団体での役割 | ムードメーカー
特技 | イラスト描き、雪掘り
よく行く場所 | えちご川口温泉

「生きづらさ」を抱えた人たちの応援団長
田中琴恵さん

活動地域 長岡



活動分野 | 地域づくり、社会福祉
団体での役割 | 副理事長、事務局長
特技 | ポジティブ思考
好きな食べ物 | せいこ蟹

活動PickUp!

- かわぐちパークゴルフ愛好会
- 竹姫工房わしま
- 特定非営利活動法人子育て広場ふくら
- 大森木工株式会社

市民活動・虎の巻

『市民活動の活動領域について』
～市民活動は できることを・できる範囲で～

この団体ができること

私たち、「優香の会」は
香道やお香の体験会をすることができます！

毎週月曜日17時頃から放送中！
つながるラジオ

ながおか市民活動紹介番組 | FMながおか | 10分程度放送 第5月曜日を除く
80.7MHz

ながおかの市民協働のポータルサイト
コライト、見ないと！

協働センターのホームページ「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。こらっとのバックナンバーも閲覧できます。

https://nkyod.org
コライト

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー！
活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きしました。

砂川 祐次郎さん(49歳)

何でも屋 / 竹田元気づくり会議、
くらしサポート越後川口 など

1971年埼玉県川口市生まれ。専門学校を卒業後、数年間関東でサラリーマンを経て、1997年に川口町(当時)の竹田集落へ移住。



●2009年から毎年企画している「竹田かんじきウォーク」。自然いっぱい竹田集落をもっと多くの方に楽しんでもらうため、「無理せず」企画運営している。

秘訣は「ぼちぼちマイペース」
ひとりの恩返しから始まる、細く長い地域活動

「温泉入ってお酒飲んで、歩いて帰れる。こないところは無い」と一目ぼれして、埼玉の川口から長岡の川口町へ移住してきた砂川祐次郎さん。川口地域にある全7世帯の竹田集落に住み、ソトを意識できる移住者の視点と、集落の人と腹を割って話せる地元住人の立場を併せ持った、集落の未来に欠かせないキーマンとなっています。

憧れの田舎暮らしを堪能していた砂川さんが、地域活動に深く関わるきっかけとなったのは2004年の中越地震。「移住してきて何もわからなかったときも世話をやいてくれたのですが、震災直後に助けてもらった時にこの地域の人たちの力強さを実感しました」。徐々に復旧が進み、川口全体で復興の機運が高まると、「これまでお世話になった地域の人たちの力になれれば」と、様々な活動に参加するように。その姿勢が信頼を集め、これからの地域づくりを考える「竹田元気づくり会議」の代表を任せ

れました。震災後は町に復興予算が組まれ、竹田集落にも「地域おこしに何かやってみない?」と提案が来たこともあり。しかし、砂川さんは「一時的に頑張っても続かないじゃないですか。 Mottoは無理せずぼちぼち」と、大々的な事業には手を出さない決断をして、集落活動を舵取りしてきました。

そんな砂川さんの活動の特徴は、関係人口増加と、雪国の景色を堪能するため2009年から続けている「竹田かんじきウォーク」、集落の出来ごとを集落のみんなに伝えるために発行するフリーペーパー「ぼちぼちたけだ」など、決して派手ではないですが継続力のある点。予算があってもなくても地域での暮らしは変わらないと、長い目で見て地域に必要なことをできる範囲で行っています。「継続の秘訣はやっぱり『ぼちぼち』。移住や震災のときに貰った恩を私なりのやり方で、マイペースに返し続けていきます」。

活動の根っこ



支援が必要な子どもたちが
「ただいま」と言える場所を

障がい等の「生きづらさ」を抱えた人たちが、体験活動を通して社会性を学び、地域の中で暮らせるように活動している特定非営利活動法人ピュアはーと。設立者の田中琴恵さんは、団体の立上げから10年間活動の中核を担っています。

活動を始めたきっかけは、娘・翠恵さんが自閉症の診断を受け、学区外の少人数制の学校に通うようになったこと。そこで田中さんは、娘が住んでいる地域の人と関わる機会がないことに気づきました。「このままでは、地域の人誰も娘のことを知らず、『この子、誰?』という状況になってしまうと思いました」。

そこで、支援が必要な子どもたちと地域のつながりをつくらせよう、2010年に「特別な支援が必要な子どもを持つ親の会」を設立。活動拠点は、住んでいる町内につくりました。「拠点をあえて住宅地に選んだのは、みんなで子どもたちを守り育てていくような地域であってほしいと思ったから。ただ、反対意

見もありましたので、一つ一つ真摯に対応しました」。その誠実な姿勢と活動が実を結び、少しずつ理解者が増えていきました。「毎年していた餅つきでは、徐々に来てくれる人が増え、町内会長さんたちとのつながりもできました。『あったかい地域になったなあ』と思いました」。

そして、2012年にNPO法人化し、13年に地域活動支援センター、15年に放課後等デイサービス「ピュアはーと」、20年に「ピュアびーす」を開所。活動を続ける中で、地域との絆も深まってきました。「今年は、地域の方と障がいのある方が一体となって、イルミネーションを設置しました。OBや親御さんたちも集まってくれて、『みんなでやってよかった』と思いました」。

目指すのは、障がいの有無に関わらず子どもたちと地域の人たちが、「ただいま」「おかえりなさい」と言い合える場所。子どもたちが、親亡き後も安心して暮らせる温かい地域をつくるため活動していきます。

田中 琴恵さん(53歳)
特定非営利活動法人ピュアはーと

琴恵さん

1966年福井県生まれ。物事をとことん追求したくなる性格で、自閉症をもつ娘を理解するため、再度大学に入学し、特別支援教育士、社会福祉士の資格を取得。



翠恵さん



●地域の方と協力して、「ピュアはーと」と「ピュアびーす」に設置したイルミネーション。2020年9月30日(水)まで、19:00~21:00の間点灯中。

活動の根っこ
人の縁、
出会いに
感謝
田中琴恵



活動PickUp!

生の声は「ラジオ」「コライト」で
「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します



川口

かわぐちパークゴルフ愛好会

だれもが楽しめるコミュニティスポーツ



2011年に川口運動公園多目的芝生広場にて新潟県内初のパークゴルフ場が誕生しました。2018年に一旦閉鎖が決まりましたが、川口地域の有志が集まり「かわぐちパークゴルフ愛好会」を立ち上げ、パークゴルフ場を再開することが出来ました。現在は、18ホールに増設するため新たにホールを整備しています。ぜひ、自然豊かなコースでのプレーが楽しめる川口にお越しください。

和島

竹姫工房わしま

竹の特性を活かして商品開発



和島地域の竹林伐採作業・保全を目的に、地域の男性8名で団体を立ち上げ、伐採後の竹をパウダー状にし、土壌改良や雑草抑制に効果が期待できるとして道の駅で販売してきました。2019年に女性メンバーを加え、女性ならではの発想で、竹が持つ消臭効果や乳酸菌発酵を活かした「ぬか床」を考案し販売したところ、発酵ブームと重なり大人気に。今後も竹の特性を活かした商品を開発し、次世代に活動をつないでいきます。

栃尾

特定非営利活動法人子育て広場ふっくら

すくすく育つ子どもたちとママの心の拠り所



長岡市から委託を受けて、地域全体で子育てを支える拠点である、子育ての駅とちお「すくすく」を運営しています。子どもたちがのびのび遊べる場を提供しながら、子育てに関する悩みにくたえられるよう、保健師・助産師・栄養士による相談会や講演会を実施しています。子育て中のママたちに寄り添いながら、これからも栃尾地域で安心して子育てができる環境を整えていきたいと思っています。

長岡

大森木工株式会社

未来の環境を考えて行動する



木製建具、家具や住宅、店舗、公共施設と幅広く「ものづくり」を手掛ける大森木工株式会社は、創業110年の老舗。廃棄物のおが屑は、家畜の寝床から畑の肥料に。廃材は、子どもたちの木工体験教室や木材アーティストの材料へと、本来は捨てられてしまう物に、新たな役割をもたせて循環を生んでいます。今後も未来を見据え「おかげさまの心」で、地域に貢献できるように異業種との協働を進めます。

みんなの声

投稿テーマ 「長岡みんなのSDGs」

投稿
随時募集中



2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の目標「SDGs」に関する投稿を掲載しています。

SDGsに関する詳細は、2020年度らこって4月号の「虎の巻」をご覧ください。

投稿方法

- 投稿フォームを使う
- 協働センター窓口で投稿する

QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。
協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。



投稿者
ウサギさん

マイバッグを持ち歩くようにしています。最近ではCOVID-19で買い物袋をビニールにしてしまっていますが、落ち着いたらマイバッグに戻します。

投稿者
まめすけさん

使わない電源は元から抜くようにしています。